

研究会員の声 15

これらは責任のとれない立場からの生の声を記録したものですので、誤解などあるかも知れません。それを承知でお読みください。

○ 最近の S 新聞に結婚詐欺のことが出ていた。昔からある手口だが、常習者は相手をその気にさせて金品を巻き上げる。頭の中にその行動モデルができあがっており、要領よくいつもその手で詐欺行為を働く。これを見て、人血造船も同じだと思った。エヌビイエルでの際の手口は、「お金は有利な金利でいつでも用立ていたします。一緒になって製品開発・製造をいたしましょう」である。その気になって同棲した後は態度が変わり、何かと条件や無理難題をふっかけて、夜な夜な首（お金）を絞めにくる。ホテルの窓口・旅の窓口：現・楽天トラベル、杜仲茶（とちゅうちゃ）：現・(株)ネービック富士。大波運輸倉庫(株)：現・(株)オーナミ、福井機械株式会社：現・(株)エイチアンドエフなどなども手口は大同小異である。

○ 各方面で、本件有名になってしまっただけでこちらが驚くことがある。地方の行政窓口に行くと NBL のことを話すと、ああ日立造船さんとトラブルになっている会社のことですか、と言われる。また、「日立造船、詐欺」と検索すれば本件がトップに出てくる。これでは真面目な多数の社員の方々は浮かばれないが、会社がコンプライアンスを無視して行動した結果である。その結果、会社価値は 200 億円ほど毀損してしまった。そもそも人血造船の会社乗っ取りのビジネスモデルには、相手が声をあげないという前提が入っている。運が悪かったといえどもそれまでであるが、そのリスクも考えてビジネスモデルが作成されていなかったというべきところであろう。今や、アラブの春の時代である。時代遅れの頭になっているということである。

○ 人血造船さんは悪智恵を働かせてエヌビイエルを乗っ取ったのはいいが、判断ミスをした。現場判断を鵜呑みにして、遠心成形技術は Dr. Nishino がいなくてもものにできる、あるいは海外ファンドに売り逃げできる、である。そのため、奴隷協定書といえる株主間協定書を策定したが、Dr. Nishino にすり逃げされた。なおも、Dr. Nishino から技術を買おうとする AGC 子会社に差し止めをねじ込んだが、逆に関係ない旨の確認書を取られた。ファンドへの売り逃げは、公開質問状が契機となり、実情が伝わってつぶれた。この間に、エヌビイエル(株)時代の ONGC、京都目利き委員会などの各種認証は、先方の意向で Dr. Nishino の新会社 (株) NBL 研究所に移ってしまい、また機械の方は世代遅れのものになってしまった。